

授 業 科 目 名	国語Ⅱ		
担 当 教 員 名	篠原 弘	高等学校教諭歴	43年
開 講 時 期	2年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

社会人としても、医療の専門職としても、絶対必要とされる基本的な資質は、「人と良好なかかわりをつけていることが重要となります。

この資質の中核を成すものは「国語の学力」である「話す」・「聞く」・「読む」・「書く」という言語能力なのです。

本講座は、このような「言語能力」を着実に目指すために開講しましたので、真剣な授業姿勢を期待しております。

【授業の進め方】

語彙、文法及び文章を取り上げ講義と演習の授業展開を進める実践的な問題解決型の形態とする。

【使用教本・教材】

基礎、基本を重視して国語における言語能力の確実な定着を目指した自作編集教材の作成とする。

【評価方法】

授業への関心、意欲を重視するとともに、小単元毎の学習の完結の成果及び総括試験をもって点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

授業のめあてを把握し課題意識を高めるとともに個人差に応じた指導による、個の学力の定着を目指す。

授 業 科 目 名	数学		
担 当 教 員 名	青山 正司	高等学校教諭歴	41年
開 講 時 期	2年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

数学の一般的教養にあたる内容を学ぶ。前半の講義では様々な数の表現とその演算についての講義を行う。

整数、小数、分数無理数の四則演算が具体的な問題を通じて、できる力を養う。

後半の講義では、初等的な統計学についての講義を行う。統計学の基本的な用語や概念を学び、具体的な問題を通して、計算できる力を養う。

前半の四則演算が身につけていることが、特に大切となる。

【授業の進め方】

講義の前半では、その講義で学ぶ内容を提示し、その内容についての解説をする。

後半では、プリント等を通じて、実際に各自で問題を解いてもらう。

【使用教本・教材】

プリントを準備する内容なので、教材は指定しません。

準備等を希望する者は、各自参考となる図書を探しておいても良い。

【評価方法】

毎回の講義の冒頭で前回の内容についての簡単な確認の小テストを行い、その合計点、定期試験の点数による絶対的評価とする。場合によってはレポート等を課すこともある。

【授業心得】

講義内容を見るとわかるように、毎回の講義の積み重ねが大切になっている。

また、内容的にも一般的教養となっているので是非マスターしたい。

スラスラと計算でき、正しい答えを導く、その楽しさをしっかりと味わってほしい。

授 業 科 目 名	英語		
担 当 教 員 名	齊藤 京子	高等学校教諭歴	40年
開 講 時 期	2年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

相手の言っている事を理解し、こちらからの伝えたい事を確実に相手が理解出来るよう、リスニングとスピーキングの力を養う。

【授業の進め方】

Unit内の要点に重きを置き、1回の授業で1Unit又は2Unitsづつします。
Unit内の基本文型をおぼえ、授業中に使用出来るようにする。

【使用教本・教材】

interchange Student's Book1 (Forth Edition 紀伊國屋書店 33-1381 小川
ISBN 978-0-521-60171-9
Cambridge University Press

【評価方法】

毎回の授業中の点数を加算し、合計点による絶対的評価として成績をだします。

【授業心得】

皆に聞こえるように声を十分だし、はっきりと話す。

授 業 科 目 名	情報処理		
担 当 教 員 名	竹林 希	1級ワープロ技士歴	24年
開 講 時 期	2年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

一般的にニーズの高いアプリケーションについて、概要と基本的な操作の習得を目的とする。
基本操作を習得することにより、応用方法の習得を目指し、自ら活用のできることを目標とする。
プレゼンテーションにおいては、概要及び基本操作の習得を目標とし、伝達方法を学ぶ。

【授業の進め方】

基本操作から文字入力とかな漢字変換。文字の装飾などを通じ、伝えるための利用技法を講習。
表の作成と装飾・編集、図形の処理。操作の練習後、課題により作品作成を行う。
また、プレゼンテーションソフトの概要及び基本操作にて演習。

【使用教本・教材】

オリジナルテキストを使用。

【評価方法】

作成した作品の仕上がりにより、理解度を図り評価とする。

【授業心得】

集中度をもって授業に臨む。

授 業 科 目 名	口腔解剖・口腔組織学		
担 当 教 員 名	入江 史子	歯科医師歴 28年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	2単位	30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

歯科衛生士の処置対象となる歯と歯周組織の微細構造および頭頸部の基本構造を学ぶとともに、構造に基づいた機能との関連を理解し、歯科臨床を理解するための基本知識を深める。

【授業の進め方】

授業中に配る講義プリントに沿って進める。

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」
全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

【評価方法】

定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

- ・授業には色鉛筆等を用意すること。
- ・授業中はプリントの空欄を埋めるだけでなく、講義中口述したことをできるだけノートに書き込むこと。
- ・分からないこと(漢字の読みなども)、聞き逃したことなど、自分だけではなく仲間のためと思いき積極的に質問すること。
- ・授業終了後、各自で教科書や関連図書を読むこと。

年間授業計画

科目名 口腔解剖・口腔組織学

回数	履修主題	履修内容
1	《口腔組織学》 I エナメル質	●エナメル質の特徴、物理化学的性質および組織構造を理解する。 ○教科書 p. 136-141
2	II 象牙質	●象牙質の特徴、物理化学的性質および組織構造を理解する。 ○教科書 p. 141-147
3	III 歯髄 IV セメント質	●歯髄の組織構造と機能を理解する。 ●セメント質の特徴、物理化学的性質および組織構造を理解する。 ○教科書 p. 147-155
4	V 歯根膜 VI 歯槽骨 VII 歯肉 VIII 萌出	●歯根膜の組織構造と機能を理解する。 ●歯槽骨の構造を理解する。 ●歯肉の特徴と構造を理解する。 ●萌出の時期と機序を理解する。 ○教科書 p. 155-163
5	臨床の中の口腔組織学	●歯と歯周組織の微細構造に関する重要事項をまとめ、理解を深めるとともに機能や臨床との関連を理解する。
6	《口腔解剖学》 I 口腔 II 口唇と頬 III 口腔前庭 IV 固有口腔 V 口峽	●口腔の構造の概略を理解する。 ●口唇と頬の構造を理解する。 ●口腔前庭の定義とそこにみられるものを理解する。 ●固有口腔を囲む構造を理解する。 ●口峽の定義と軟口蓋を構成する筋を理解する。 ○教科書 p. 10-14
7	VI 舌 VII 唾液腺 VIII 咽頭	●舌の乳頭の種類と構造、機能を理解する。 ●舌筋の種類を理解する。 ○教科書 p. 14-18 ●大唾液腺の種類と開口部を理解する。 ●小唾液腺の種類を理解する。 ○教科書 p. 136-138 ●咽頭の構造とそこに見られるものを理解する。 ○教科書 p. 105-109
8	IX 頭蓋骨	●頭蓋骨の構造と構成する骨を理解する。 ○教科書 p. 18-28

科目名 口腔解剖・口腔組織学

回数	履修主題	履修内容
9	X上顎骨 XII下顎骨 XIV顎関節	<ul style="list-style-type: none"> ●上顎骨の構造(内部にあるものと4つの突起、神経や血管の通る孔)を理解する。 ●口蓋骨の構造の概略を理解する。 ●下顎骨の構造(突起と筋の付着部位、神経や血管の通る孔)を理解する。 <p>○教科書 p. 28-34</p> <ul style="list-style-type: none"> ●顎関節の構造と下顎運動の概略を理解する。 <p>○教科書 p. 42-45</p>
10	XV表情筋 XVI舌骨上筋	<ul style="list-style-type: none"> ●表情筋の種類を理解する。 <p>○教科書 p. 34-37</p> <ul style="list-style-type: none"> ●舌骨上筋の種類と付着部位、支配神経を理解する。 <p>○教科書 p. 39-41</p>
11	XVII咀嚼筋	<ul style="list-style-type: none"> ●咀嚼筋の種類と起始、停止、作用を理解する。 <p>○教科書 p. 37-38</p>
12	XVIII口腔付近の動脈 XIX口腔付近の静脈 XX口腔付近のリンパ系	<ul style="list-style-type: none"> ●外頸動脈と顎動脈の枝とその分布を理解する。 ●口腔付近に分布する静脈の概略を理解する。 ●口腔付近に分布するリンパ節を理解する。 <p>○教科書 p. 45-56</p>
13	XXI神経 < I > 脳神経 3. 舌咽神経 4. 迷走神経 5. 舌下神経	<ul style="list-style-type: none"> ●神経の種類と機能について理解する。 ●脳神経の機能と概略を理解する。 ●舌咽神経の枝と機能を理解する。 ●迷走神経の枝と機能を理解する。 ●舌下神経の支配する筋を理解する。 <p>○教科書 p. 57-64</p>
14	1. 三叉神経 2. 顔面神経 < II > 脊髄神経 < III > 自律神経	<ul style="list-style-type: none"> ●三叉神経の枝の分布領域を理解する。 ●三叉神経に附属する神経節の名称と機能を理解する。 ●下顎神経に支配される筋の種類を理解する。 ●顔面神経の枝と機能を理解する。 ●脊髄神経の概略を理解する。 ●交感神経と副交感神経の概略を理解する。 ●唾液腺の副交感神経支配について理解する。 <p>○教科書 p. 57-67</p>
15	臨床の中の口腔解剖学	<ul style="list-style-type: none"> ●頭頸部の内臓、脈管、神経、骨、筋をまとめ、頭頸部の3次元構造の理解を深めるとともに臨床との関連を理解する。

授 業 科 目 名	口腔生理学		
担 当 教 員 名	角 谷 淳	歯科医師歴 30年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

歯科医療を行うものにとって口腔生理学の知識は必要不可欠である。なぜなら、それらは診療において患者の症状の把握、病状の経過、全身状態の把握に直結するからである。口腔生理学の内容を全8回にわけ各項目ごとに理解を深めていくことを目標とする。

【授業の進め方】

教科書と配布資料を用いて授業を進める。

【使用教本・教材】

「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」

【評価方法】

授業態度（周囲に迷惑をかけないこと）、毎回行う小テスト、定期試験を総合し点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

その日の授業内容は、必ず復習すること。

授 業 科 目 名	微生物学・口腔微生物学Ⅱ		
担 当 教 員 名	柴田 健一郎 歯学博士歴 31年		
開 講 時 期	2年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義・実習	1単位	30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

微生物とヒトあるいは他の動物との関わり合い、微生物が病気を起こすメカニズム、微生物によって起こる主な病気の発症メカニズムならびに治療法と予防法について学ぶ。
さらに、口腔の二大疾患である歯周疾患とう蝕の病院論を細菌学的に理解する。

【授業の進め方】

講義はスライドを用い、教科書に準拠して行う。2回以降の講義では前回の講義の復習小テストを行う。

【使用教本・教材】

新歯科衛生士教本 微生物学 第2版 医歯薬出版

【評価方法】

出席率ならびに中間試験と期末試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

授業中に居眠りをせず、よく聞くこと

年間授業計画

科目名 微生物学・口腔微生物学Ⅱ

回数	履修主題	履修内容
1	微生物の形態・一般的性状の復習	細菌、ルケッチア、クラミジア、マイコプラズマ、真菌の一般的な性状を復習する
2	免疫機構とアレルギーの復習	自然免疫、獲得免疫ならびにアレルギーについて復習する
3	グラム陽性球菌・桿菌感染症	連鎖球菌、ブドウ球菌、バシラス属細菌ならびにクロストリジウム属細菌感染症
4	グラム陰性球菌・桿菌感染症	淋菌、髄膜炎菌、腸内細菌、歯周病原細菌
5	ウイルス感染症	ヘルペスウイルス感染症、ウイルス性肝炎、エイズ等の病因論
6	化学療法、滅菌と消毒	β -ラクタム系、マクロライド系、テトラサイクリン系抗生物質の作用機
7	口腔常在微生物と齲蝕症	口腔常在細菌叢とバイオフィルム、ミュータンス連鎖球菌の齲蝕原性因子
8	歯周病	歯周病原細菌、生活習慣関連病
9	その他の口腔感染症	口腔カンジタ症、顎放線菌症、口唇ヘルペス
10	細菌学実習の準備①	実習の概要および手技、手順の説明
11	細菌学実習の準備②	実習の概要および手技、手順の説明
12	細菌学実習①	グラム陽性菌とグラム陰性菌の顕微鏡観察
13		
14	細菌学実習②	歯垢ならびに唾液中の細菌の検出とその観察
15		

授 業 科 目 名	病理学・口腔病理学Ⅱ		
担 当 教 員 名	熊澤 龍一郎	歯科医師歴 22年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

病理学は、病気の原因、発生機序、経過及び転帰など、病気の本体について、その科学的理論を学ぶものです。平成16年からは、文部科学省・厚生労働省の省令により、歯科衛生士の教育年限が2年から3年以上になっている。このことは、歯科医療、口腔保険および介護の分野での歯科衛生士の果たすべき役割がさらに増大したことを意味します。これに伴い、歯科衛生士には、病気の予防、診断、治療を含めた口腔のみならず、全身組織での病気の発現と、進行のメカニズムを、従来に増して、理解する必要ができてきました。

本授業では、全身状態の理解のうえでの「病理学」、口腔の病態に絞った「口腔病理学」について、歯科衛生士として必要な知識の習得を目的とします。

【授業の進め方】

授業は必要事項、特に専門用語の習得を得やすくするため、プリントへの用語の穴埋めをしながら、また、より理解を得やすくするため、図や写真を見てもらいながら進めます。

短期間で専門用語を覚えてもらうため、小テストを行います。

口腔内の病変にすこしでも興味を持ってもらうため、実際の臨床の写真も見てもらいます。

【使用教本・教材】

新歯科衛生士教本(第2版) 医歯薬出版株式会社

【評価方法】

定期試験の点数による絶対的評価とする。しかし、授業毎に行う、小テストの成績も加点とする。

【授業心得】

病理学で学習する覚えるべき用語は、専門用語が多く大変だと思います。しかしながら、他の教科でも必要になる用語がほとんどです。なるべく早い段階で、用語を理解するとその他

授業科目名	薬理学・歯科薬理学Ⅱ		
担当教員名	南川 元	歯科医師歴 12年	実務経験
開講時期	2年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

授業目的： 歯科衛生士は日常の臨床の場で種々の薬物を取り扱う。それらの薬物を患者に対して有効にかつ安全に、また、衛生士自身にとっても安全に使用するためには、薬物に関して十分な知識を持ち、正しい取り扱い方を身につける必要がある。また、全身疾患を有し他の科で種々の薬物を投与されている患者の来院も多いことから、歯科以外で使用される薬物についても基本的な知識を持つ必要がある。このような目的で薬理学を学ぶ。薬理学・歯科薬理学Ⅱにおいては、1年生で学んだ総論をベースに、各論の各種薬物について学ぶ。さらに、歯科臨床に直接関わる歯科疾患の回復を促進する薬物に関して学ぶ。

到達目標： 1. 種々の全身疾患において投与される薬物について理解し説明できる。
2. 基本的な止血薬、抗炎症薬、鎮痛薬、抗感染症薬の種類と薬理作用について説明できる。
3. 消毒薬と歯科専用薬物の性質と使用法に関して十分に理解し説明できる。

【授業の進め方】

記憶すべき語句を空欄の括弧として教科書から重要な個所を抜粋したプリントと、教科書の各章ごとに歯科衛生士国家試験の既出問題を分類したプリントを配布する。

授業は、プリントに抜粋した部分を中心にパワーポイントで示しながら説明して進める。プリントの空欄括弧内に入るべき語句は、パワーポイントでは赤字で示されるので、授業を聞きながらプリントの括弧を埋めていく。

衛生士国家試験の既出問題は、直接関連する授業時間中に考えさせ、解答と解説を行う。

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ちおよび回復過程の促進3 薬理学

【評価方法】

出席日数を満たし定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

薬理学はカタカナの用語が多く、難しく感じるかもしれないが、ある程度学習が進むと必要とされる用語の数は限られていることが理解できると思う。毎回の授業を大切に集中して受けること。また、国家試験の出題問題の範囲もある程度限られているので、既出問題の解答と解説を大事にすること。

授業科目名	衛生学・公衆衛生学(衛生学)		
担当教員名	谷 宏	歯科医師歴 55年	実務経験
開講時期	2年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間(8回)

【授業の目的・到達目標】

目的： 衛生・公衆衛生学の考え方を理解し、健康問題に関わる知識や問題解決のための方法を学んで個人の健康と地域の人々の健康を守ることを目的とする。

- 目標： ・地域の人々の健康を守る医療人としての意識の向上を図るとともに、広い視野をもって、健康に関わる社会の出来事に関心を持つ。
- ・健康や病気には自然環境や社会環境など多くの要因が関わっていることを知り、健康増進や疾病予防に必要な知識や予防法を学ぶ。
 - ・日常の生活習慣や疾病予防の視点から、自分の健康に留意して生活し、自分の健康を守るとともに家族の健康を守る能力を向上させる。

【授業の進め方】

- ・教本とともに、板書を減らすために授業用のプリントを用いる。
- ・授業終了前に、毎回小テストを行う(約10分)。どれだけ授業に集中できたか、自らの参考とする。
- ・“今日の授業の感想”を毎回書く。授業内容に関連して心に感じたこと、気付いたこと、質問など。
- ・授業の始めに、前回の“授業の感想”と小テストの結果をもとに、前回の復習をする。

【使用教本・教材】

「保健生態学」(医歯薬出版)

「保健統計情報学」(医歯薬出版):5回目と6回目に持参

【評価方法】

- | | | | |
|-------------|-----|---|-------------------|
| ・ 平常点(小テスト) | 30% | } | 総合し点数による絶対的評価とする。 |
| ・ 定期試験 | 70% | | |

【授業心得】

- ・ 授業のテーマは広範囲にわたっていて、しかも内容が豊富。従ってすべてを覚える勉強ではなく、心で聴いて心で感じ、そして理解することに努めること。
- ・ 毎日する勉強と試験のためにする勉強とは違う。試験勉強は試験の前にするもの。
- ・ 授業が大事。授業に集中することが大事。集中できるよう毎日の生活習慣に気を付ける。
- ・ 授業は耳だけで聞くものではない。全身で聴くもの。心も手も動かす。
- ・ 勉強は自分がするもの、今するもの。復習は重要。
- ・ テストも感想文も、漢字で書くべき語句は漢字で書く。間違えるのは今、覚えるのも今。

授 業 科 目 名	衛生学・公衆衛生学(公衆衛生学)		
担 当 教 員 名	中村 悦子	歯科医師歴 36年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	14時間(7回)	

【授業の目的・到達目標】

目的: この授業を受講し、集団における健康に関する現状や健康維持体制についての知識を得ることで、集団としての健康問題を認識する能力を養う事と、新しい情報に接し、正しい情報を人に伝えることができるようになることを目的とする。

1. 知識:各ライフステージ毎の健康状況および健康を維持する体制を知る。
集団の健康問題についての公衆衛生学的な考え方を理解できる。
2. 態度・習慣:健康に関する情報に関心を持ち、正しい情報を得ようとする。
3. 技能:集団としての健康問題を認識できる。
目的集団の健康に関する情報を適切に伝えることができる。

- 目標:
1. 知識:ライフステージ毎の健康問題を知る。
ライフステージ毎の健康維持体制を知る。
健康指標について理解する。
健康を守る法律を知る。
 2. 態度・習慣:新聞等のメディアで取り上げられる情報に関心を持つ。
情報が正しいものかどうか検証する態度を養う。
 3. 技能:自分の得た知識や情報を、わかりやすく人に伝える工夫をする。
健康問題を集団として捉える。

【授業の進め方】

パワーポイントを使用した講義形式とする。

授業のはじめの10分間で、前回の授業のまとめを学生に発表していただきます。

【使用教本・教材】

使用教本:最新歯科衛生士教本「保健生態学」

参考教材:厚生統計協会「国民衛生の動向」(購入する必要はありません)

【評価方法】

1章から6章までの試験点数と、この授業で行う7章から12章までの試験点数の合計が60点以上を合格とした絶対的評価とする。

【授業心得】

授業時間に集中して聞くこと。

新聞やテレビ等の健康に関する情報に関心を持つこと。

授 業 科 目 名	口腔衛生学		
担 当 教 員 名	谷 宏	歯科医師歴 55年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	2単位	30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

目 的：

口腔衛生学の考え方を理解し、歯・口の健康に関わる知識と疾病・異常の予防方法を学んで、個人の健康と地域の人々の健康を守ることを目的とする。

目 標：

- ・ 地域の人々の健康を守る歯科衛生士としての意識の向上を図るとともに、広い視野をもって健康や人々の生活に関心をもつ。
- ・ う蝕や歯周病など、歯科疾患の発生にも多くの環境要因が関わっていることを知り、疾病予防に必要な知識や予防法を学ぶ。
- ・ 日常生活習慣や疾病予防の視点から、地域の人々の口腔の健康を守るとともに、自分の歯の健康を守る能力を向上させる。
- ・ 地域住民のライフステージに応じた歯の健康づくりを支援する社会の仕組みや組織、その方法を習得する。
- ・ 歯科保健指導、予防処置、地域保健活動に参加する上で必要な基礎知識を習得する。

【授業の進め方】

- ・ 教本とともに、板書を減らすために授業用のプリントを用いる。
- ・ 授業終了前に、毎回小テストを行う(約10分)。どれだけ授業に集中できたか、自らの参考とする。
- ・ “今日の授業の感想”を毎回書く。授業内容に関連して心に感じたこと、気付いたこと、質問など。
- ・ 授業の始めに、前回の“授業の感想”と小テストの結果をもとに、前回の復習をする。

【使用教本・教材】

「保健生態学」(医歯薬出版)

【評価方法】

- | | | | |
|-------------|-----|---|-------------------|
| ・ 平常点(小テスト) | 30% | } | 総合し点数による絶対的評価とする。 |
| ・ 定期試験 | 70% | | |

【授業心得】

- ・ 授業は聴いて心で感じ、そして理解することに努めること。
- ・ 毎日する勉強と試験のためにする勉強とは違う。試験勉強は試験の前にするもの。
- ・ 授業が大事。授業に集中することが大事。集中できるよう毎日の生活習慣に気を付ける。
- ・ 授業は耳だけで聞くものではない。全身で聴くもの。心も手も動かす。
- ・ 勉強は自分がするもの、今するもの。復習は重要。
- ・ テストも感想文も、漢字で書くべき語句は漢字で書く。間違えるのは今、覚えるのも今。

年間授業計画

科目名 口腔衛生学

回数	履修主題	履修内容
1	総論	口腔衛生学・予防歯科学とは、口腔保健分野の予防の5ステップ
2	歯・口の健康(1)	歯・口腔の機能 1)唾液の分泌とその役割・意義、唾液による自浄作用
3	歯・口の健康(2)	2)「乳児の食べる機能の発達」ビデオ鑑賞
4	歯・口の健康(3)	3)咀嚼の意義(全身と口腔への影響)、咀嚼による自浄作用
5	歯・口の健康(4)	歯の形成と萌出、乳歯／永久歯の歯の萌出時期と個人差
6	口腔内の環境(1)	歯・口腔の付着物・沈着物「食渣、ペリクル、歯垢、歯石」
7	口腔内の環境(2)	口腔細菌叢、歯肉縁上プラークの成熟、縁下プラーク細菌との違い
8	口腔清掃	ブラッシングはなぜ歯肉炎の予防に有効か、う蝕予防の決め手になる？
9	う蝕とその予防(1)	う蝕の疫学(疫学的特徴、う蝕の現状と蔓延の歴史)、発生要因
10	う蝕とその予防(2)	う蝕発生に関わる糖質と代用甘味料【なぜショ糖がう蝕の原因に？】
11	う蝕とその予防(3)	酸産生に関わる口腔細菌、不溶性グルカンを合成するミュータンス菌
12	う蝕とその予防(4)	生活習慣からみたう蝕の原因とその予防、ヴィベホルム研究
13	フッ化物とその応用(1)	自然界のフッ素、う蝕予防応用への歴史、代謝と毒性
14	フッ化物とその応用(2)	全身応用法と局所応用法、予防効果と判定法、それらの問題点
15	フッ化物とその応用(3)	う蝕予防機序、各種フッ化物溶液等のF濃度(ppmと%)

授 業 科 目 名	衛生行政・社会福祉(衛生行政)		
担 当 教 員 名	山本 貞夫	市職員歴 36年	(保健所次長)
開 講 時 期	2年生	後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間 (8回)

【授業の目的・到達目標】

歯科衛生士を目指すに当たり、基本的な知識を身につけさせるようにする。

特に、社会における自分の立場、何に基づいて仕事をするのか等自分と社会のかかわりを十分認識させることにより、技術面のみならず常識面においても自立した社会人となるよう教育する。

【授業の進め方】

年間授業計画に沿って進めることとするが、特に重要と思われる箇所については、時間を多く費やすこととする。

【使用教本・教材】

衛生行政・社会福祉(医歯薬出版株式会社)

【評価方法】

授業内容をどの程度理解しているか、試験を行うことにより公平な評価を下す。

総合的に、定期試験を含めた点数による絶対的評価とする。

総合的に、定期試験を含めた点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

一方通行の授業とならないよう努力する

授 業 科 目 名	歯科医療倫理		
担 当 教 員 名	熊澤 隆樹	歯科医師歴 55年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間(8回)

【授業の目的・到達目標】

「目的」 歯科衛生士が医療現場でどのような倫理的判断で行動するかを学ぶ。

「目標」 患者との信頼関係だけでなく、歯科医師や同僚たちとも円滑な連携を保つ能力を身につける。

そして、「生と死」の問題についても認識を深め、生命倫理についても理解する。

【授業の進め方】

教本を中心に授業を進めるが、理解を深めるために、いろいろな本を紹介し、人間性を高めるようにリードしていく。

【使用教本・教材】

医歯薬出版 「歯科医療倫理」

【評価方法】

ノートのとり方・小テストを総合し、点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

私語を慎む

授 業 科 目 名	歯科保存学(歯内療法学)		
担 当 教 員 名	佐藤 友則	歯科医師歴 28年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間(8回)

【授業の目的・到達目標】

・歯内療法学は、歯科医療の中でも多くの割合を占める処置の一つであり、
歯科衛生士は、その処置の補助業務を務めるにあたり、各歯内療法処置における
必要な知識を習得する。

【授業の進め方】

・講義を中心に歯内療法学における基礎知識、治療内容など国家試験の問題傾向を
取り入れ授業を展開していく

【使用教本・教材】

・最新 歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法

【評価方法】

・定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

・授業中は集中し、よく聞くこと。また解らないことはそのままにはせず、質問などを
積極的に行う。また、予習・復習は怠らないこと。
行う。また、予習・復習は怠らないこと。

授 業 科 目 名	歯科補綴学Ⅱ（各論）		
担 当 教 員 名	高村 佳明	歯科医師歴 29年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

歯の欠損によって生じる病態を知り、その病状に対しての治療法が補綴治療であることを学ぶ。また、補綴治療の種類と各々の特徴を理解する。

【授業の進め方】

スライドを中心とした授業

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本「歯科補綴」

【評価方法】

定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

国家試験を含んでいるため、授業以外でも自ら勉強するよう心がけること。

授 業 科 目 名	口腔外科学Ⅱ		
担 当 教 員 名	原田 雅史	歯科医師歴 25年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	20時間（10回）

【授業の目的・到達目標】

口腔外科疾患の病態を理解する。
口腔外科疾患の症例別における発生機序・発生率・原因を理解する。
口腔外科疾患の治療について、術式およびアシスタントの役割を理解する。

口腔外科学的な知識を持った歯科衛生士の育成を目的とする。
歯科衛生士の業務拡大に対応できる基礎を学ぶ。
口腔外科における歯科衛生士の役割を学ぶ。

歯科麻酔学については、日常臨床の場で起こりうる全身的合併症を理解する。
一次救命処置を行うにあたり、その医学的知識を習得する。

【授業の進め方】

臨床に即した口腔外科疾患を学ぶため、病態写真のスライドや手術ビデオをメインに講義を行う。
必要に応じて質問形式の講義とする。
国家試験にも対応した小テストを随時行う。

【使用教本・教材】

教本：口腔外科学、歯科麻酔学
教材：スライド、プリント

【評価方法】

定期試験、質問に対する返答の評価、レポート、出席点を総合し、点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

スライドを使用し毎回連続的にまた実践的に講義を行うため、教科書と照らし合わせ予習、復習が必要である。

授 業 科 目 名	小児歯科学Ⅱ		
担 当 教 員 名	坂口 友朗	歯科医師歴 25年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

- ・小児歯科では、治療の対象が成長を続ける小児であり、治療においては予防処置～治療～メンテナンスの重要性までと極めて広範囲にわたる。
- ・その中で、小児患者に対する対応や保護者に対する対応（協力）においても治療を進めていくには不可欠なものである。
- ・小児歯科学では、乳歯・永久歯の特徴を理解するとともに、成長（発育）・状態・精神面を考え対応等ができるような知識の向上を目標とする

【授業の進め方】

- ・実際の小児に対する歯科治療のスライドを用い、講義中心に行う。
- ・また、将来、母親となった時に必要な乳幼児との接し方や育て方なども含めて題材に取り入れ授業を展開する

【使用教本・教材】

- ・最新 歯科衛生士教本 小児歯科
- ・臨床における小児患者のスライドやグラフ・表など

【評価方法】

- ・日常点（授業態度など）
 - ・定期試験
- } 総合し点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

- ・予習、復習をかならず行うこと。
- ・授業内の私語、居眠り等は慎むこと。

授 業 科 目 名	矯正歯科学		
担 当 教 員 名	木山 望	歯科医師歴 8年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	2単位	30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

目的：歯科衛生士として歯科医師と協力して歯科矯正治療を行う上で必要な知識を修得することを目的とする。

目標

1. 患者に優しく安全な歯科矯正治療を提供するために、医療従事者としての基本的な心構えを理解し、習得する。
2. 正しく安全な歯科矯正治療を実践するための顎顔面領域を中心とした成長発育を理解する。
3. 歯科矯正診断に必要な検査・分析に関する知識を習得する。
4. 歯科矯正治療に必要な器具・装置に関する知識を習得する。

【授業の進め方】

オリジナルスライドを用いながら指定教科書に準じて授業を行う。

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正。

【評価方法】

期末試験により合否を判定する。60点以上を合格とし、それに満たないものに再試験を行う。

再々試験は行わない。

いずれも、点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

国家試験を含んでいるため、授業以外でも自ら勉強するよう心がけること。

年間授業計画

科目名 矯正歯科学

回数	履修主題	履修内容
1	歯科矯正治療の概要	歯科矯正学の定義、矯正治療の目的
2	成長・発育	頭蓋顎顔面の成長発育、歯の発育、歯列の発育
3	咬合	咬合と下顎位、正常咬合の定義
4	不正咬合1	不正咬合の種類と分類、個々の歯の位置異常
5	不正咬合2	不正咬合の原因、予防
6	歯、顎の移動のための矯正力	歯の移動様式とそれに伴う組織変化、臨床的变化、矯正力の種類
7	矯正診断	矯正診断に必要な診断、分析
8	矯正装置1	矯正装置の分類
9	矯正装置2	矯正装置の使用方法、使用目的
10	矯正治療に使用する器材1	矯正治療に用いる材料
11	矯正治療に使用する器材2	矯正治療に用いる器具
12	歯科矯正治療の実際1	乳歯列期、混合歯列期の矯正治療
13	歯科矯正治療の実際2	永久歯列、先天異常の矯正治療
14	矯正臨床における歯科衛生士の役割	歯科衛生士の果たす役割
15	国家試験対策・期末試験対策	総括および試験対策

授 業 科 目 名	高齢者歯科・障がい者歯科(高齢者歯科)	実務経験
担 当 教 員 名	金山 優子 歯科衛生士歴 48年 介護支援専門員 19年	
担当学年	2年生 前・後 期	
授業形態・単位数・時間	講義	28時間 (14回)

【授業の目的・到達目標】

加齢や疾病に伴い生じた 歯科領域の機能の衰えにより日常生活に支障をきたした、又きたすであろう高齢者に歯科の知識と技術を活用して、援助・リハビリテーションを実施し、自立を支援し、QOLを維持、向上を目指す方法を学ぶ。

その為に高齢者の症状や心身の状況、及びそのおかれている環境を的確に把握し、口腔環境を整える事を習得する。

【授業の進め方】

「高齢者とは」については 講義形式で行う。

又、加齢や疾病により生じた、日常生活の支障に対しての身体介護を実技として学ぶ。

【使用教本・教材】

プリント配布

ホームヘルパー2級課程 テキスト DVD

【評価方法】

講義で小テストを行う。実技においては実習点をつける。

その他 学生として 将来歯科衛生士となる自覚を持つ態度で授業を受けているか授業態度を重視します。定期試験も含め点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

教科書を丸暗記するのではなく「理解する」ことを重視した学習態度を身につけるよう努力する。

将来直接、「人間」に接する専門職となる事を理解し、その重要性を自覚すること。

授 業 科 目 名	高齢者歯科・障がい者歯科(障がい者歯科)		
担 当 教 員 名	五十嵐 清治	歯科医師歴 49年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	20時間(180分×5回)

【授業の目的・到達目標】

少子・高齢化の進行とともに、障害のある要介護高齢者が急増している今日、こころやからだの障害の問題は一部の人あるいは短い期間の問題にとどまらず、すべての国民にとって身近で重要な問題になっている。

歯科医療も「食べる、しゃべる、息をする」などのQOLと直結した口腔の機能と健康を守るために、障害についての知識・技術を十分に身につける理解を高める。

【授業の進め方】

年間授業計画に沿って実施

途中、小テストで理解の状態を確認しながら進める

【使用教本・教材】

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 障害者歯科
スライド、プリント

【評価方法】

小テスト、普段点 } 総合し点数による絶対的評価とする。
定期試験

【授業心得】

予習・復習を心がけ、意欲的に授業に取り組むこと。

年間授業計画

科目名 高齢者歯科・障がい者歯科(障がい者歯科)

回数	履修主題	履修内容
1	1章 障害者の現況	1)障害の種類、分類が列挙できる 2)障害の発生要因を概説できる
2	2章 障害者の歯科診療 I 障害者歯科の特質 II ライフサークルと障害者歯科 III 障害者歯科における行動調整	3)小児・成人高齢の障害者にみられる歯科的特性を列挙できる 4)歯科保健、治療における行動調整の種類と特徴を列挙できる
3	2章 障害者の歯科診療 IV 障害者の生活 V 障害者歯科と専門職の役割	5)障害者の歯科保健と関係の深い専門職種の種類と役割を列挙できる
4	3章 障害の種類と歯科的特徴	6)障害別の身体的、精神的特徴を説明できる 7)障害別の歯及び口腔の形態的、機能的特徴をあげることができる
5	4章 障害者と薬剤	8)障害者に多い服用薬剤の種類、用途について説明できる
6	5章 障害者歯科における 歯科衛生士の役割 I 障害者に対する基本的な対応 II 業務記録とその管理、活用	9)障害者の対応に必要な歯科衛生士としての態度姿勢を修得する 10)障害者に対する歯科衛生指導と診療の補助に必要なデータの採取と管理ができる 11)家族を含めた理解
7	5章 障害者歯科における 歯科衛生士の役割 III 摂食・嚥下障害への対応	12)摂食・嚥下リハビリテーションの実際について理解できる 理解できる
8	6章 障害者の歯科診療と 歯科診療補助 I 診療の基本的な流れと対応 II 行動調整における歯科診療の実際 III 歯科治療時の工夫と留意点 IV 障害別の対応 V 全身状態への配慮 VI 感染予防 VII 業務記録の必要性和書き方	13)障害者歯科診療のビデオを見ながら障害者を理解する 14)障害者歯科診療のビデオを見ながら実際の診療内容を理解する 15)障害者の歯科診療における基本的な診療の流れと歯科衛生士の役割を理解できる 16)障害別に歯科衛生士として患者対応に必要な基本的事項が列挙できる
9	6章 障害者の歯科診療と 歯科診療補助	17)障害者に対する口腔の器質面のケアの内容が説明できる 18)障害者に対する口腔の機能面のケアの内容が説明できる
10	8章 障害者の歯科保健指導 の留意点と指導の実際	19)障害者の歯科保健指導を行う時に必要な身体的、知的、生活環境上の特徴を列挙できる 20)障害者の歯科保健指導に必要な技術的、心理的工夫などを列挙できる

授 業 科 目 名	隣接医学		
担 当 教 員 名	外園 光一	医師歴 41年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

今後、歯科医療従事者も有病者・高齢者に関わる機会がますます増加することが考えられる。
 医学に対する理解を深め医学知識の充実をはかり、歯科医療に反映させる。

【授業の進め方】

授業計画による

【使用教本・教材】

医歯薬出版 デンタルハイジーン別冊 「歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック」

【評価方法】

定期試験、授業態度、レポートを総合し点数による絶対的評価とする。
 授業計画による

【授業心得】

予習・復習を心がけること。

年間授業計画

科目名 隣接医学

回数	履修主題	履修内容
1	加齢による変化	・身体的変化と心理的变化の違い ・老化と病気の関係を理解する
	認知症	・アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症の比較 ・認知症の症状を中核症状と周辺症状に分類する
2	脳卒中後遺症	・脳の梗塞部位と症状を比較する ・運動性失語、感覚性失語、前失語に分類する
	精神障害1	・精神分裂症の病態別分類 ・気分障害の病態別分類
3	精神障害2	・神経症性障害の病態別分類 ・アルコール依存症の病態と症状を知る
	脳性麻痺・ 脊髄損傷	・脳性麻痺の病態、症状などを理解する ・脊髄損傷の病態、症状などを理解する
4	知的障害・自閉症・ダウン症	・知的発達障害の定義 ・自閉症、ダウン症の特徴
	てんかん	・てんかんの特徴
5	視覚障害・聴覚障害	・視覚障害、聴覚障害を理解する
	心機能障害などの内部障害	・虚血性心疾患、うっ血性心疾患、慢性呼吸不全、慢性腎不全の 症状と治療、予防について理解する
6	高血圧	・高血圧の原因別分類 ・高血圧の症状と治療や薬物療法について理解を深める
	糖尿病	・I型とII型の糖尿の分類 ・糖尿病の症状や治療薬、合併症を知る
7	介護保険制度における特定 疾病の概要1	・特定疾病が挙げられる ・特定疾病の特徴
	介護保険制度における特定 疾病の概要2	・特定疾病の治療法を理解する
8	臨床医学と歯科医療の現場に 必要な知識1	・医学知識の充実
	臨床医学と歯科医療の現場に 必要な知識2	・医学に関する理解度を上げる ・まとめ

授 業 科 目 名	栄養指導		
担 当 教 員 名	奥嶋 寿美子	管理栄養士歴 31年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

各栄養素の性質や働きと生体のかかわりを正しく理解し健康維持の基本は、栄養であることを理解する。

1. 三大栄養素の生体内での役割を理解する。
2. 栄養素の個々の働きと欠乏症・過剰症について理解する。

【授業の進め方】

適時資料配布

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝(医歯薬出版)

【評価方法】

- | | | |
|---------|---|--------------------|
| 1. 定期試験 | } | 総合し、点数による絶対的評価とする。 |
| 2. 小テスト | | |
| 3. 学習態度 | | |

【授業心得】

健康と食に関し、自主学習を行ってください。

授 業 科 目 名	臨床検査法		
担 当 教 員 名	清水 祐治	臨床検査技師歴 33年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	20時間（10回）

【授業の目的・到達目標】

（目的） 歯科衛生士として必要な臨床検査を理解し、臨床検査全般に関する知識を深める

（目標） 1・臨床検査と臨床検査技師、臨床検査と歯科衛生士の関わりを理解する。

2・尿検査の必要性和腎機能について理解する。

3・血液検査と採血法について理解する。

4・血液型と輸血について理解する。

5・貧血の種類と出血性素因の検査法について理解する。

6・感染症検査について肝炎ウイルスと感染予防について理解する。

7・肝機能検査、糖尿病の検査について理解する。

8・体温、脈拍、血圧の測定が的確にできる。

9・尿検査のスクリーニング検査を理解し、検査実施できる。

【授業の進め方】

教本を中心に授業をすすめ、特に必要な単元には実習を行い、理解を深める。

【使用教本・教材】

- ・新歯科衛生士教本 歯科診療補助 臨床検査法(医歯薬出版株式会社)
- ・新歯科衛生士教本 生理学(医歯薬出版株式会社)

【評価方法】

定期試験と実習時の提出物および講義への取り組み方を総合し点数による絶対的評価とする。

定期試験80%実習時の提出物10% 講義への取り組み方、学習態度など 10% ただし、

定期試験に不合格の場合には再試験を行う。

【授業心得】

実習時には適切に行動し、安全に実習を行うこと。

授 業 科 目 名	表現方法論		
担 当 教 員 名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴 23年	実務経験
	橋本 幸子	歯科衛生士歴 45年	実務経験
	笹山 美香	歯科衛生士歴 23年	実務経験
開 講 時 期	2年生	後期	
授業形態・単位数・時間	講 義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

歯科衛生の大切さを普及する。 幼児期の子供達に虫歯予防や歯の大切さを理解してもらうため
 児童向けにわかりやすい10分程度の劇を作成。
 また、卒業後歯科医療関係に従事する場合、患者やその家族の幼児との対応を理解する

【授業の進め方】

上演で使用する物は全て手作りで台本、人形や舞台(けこみなど)小道具類、役のふり分け
 けいこなど生徒が主体になり進める。

【使用教本・教材】

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論
 当方で用意するプリントを使用する。

【評価方法】

- ①幼児期・学齢期に対する保健指導を理解しているか。
 - ②幼児が理解しやすい表現法を理解しているか。
- 上記の理解度を評価する

【授業心得】

実際に幼児に見せて理解できることを意識し授業には集中する。

授 業 科 目 名	教養講座Ⅰ		
担 当 教 員 名	郷 保 雄		
開 講 時 期	2年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間(8回)

【授業の目的・到達目標】

- 1 北海道ゆかりの作家と作品の概説を通じて、地域(特に小樽・後志・札幌・旭川・釧路・苫小牧・函館など)の文化や歴史との関わりを理解する。
- 2 この講座で学んだ知識・教養を、近い将来歯科衛生士として各地の歯科医療の場で接する人々とのコミュニケーションの場面で生かすことができるように、自己の能力を高める。

【授業の進め方】

- 1 各講義時間ごとに、一人または二人の作家と作品にテーマを絞り、作家紹介・主な作品解説を行う。
- 2 作家や作品ゆかりの地(文学碑・歌碑・学んだ場や住居跡など)の説明や作品朗読、関連する歌などの歌唱を楽しみ、特に小樽の街については、文学散歩(学校近隣のゆかりの地の散策)を行う。
- 3 講座のうち、数回は「公開講座」とし、学校職員や一般の受講希望者の方々も参加でき、学生と共に地域への理解を深める場となるように進めてゆく。

【使用教本・教材】

- 1 各講義時間ごとに、作家と作品に関する教材(年表・文学地図・写真付きの参考資料)を配付する。

【評価方法】

- 1 各講座終了後、受講メモ・感想記入形式のレポートの提出・内容確認をもって評価する。

【授業心得】

- 1 一般の方々に参加する場合もあるので、しっかりした聴講態度で受講すること。
- 2 朗読・歌唱などに積極的に参加し、その後の学習実践活動(保育所訪問実習の発表表現など)の場で生かせる技術や能力を身につけるための参考とすること。

授 業 科 目 名	歯科予防処置法Ⅱ		
担 当 教 員 名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴 23年	実務経験
	橋本 幸子	歯科衛生士歴 45年	実務経験
	笹山 美香	歯科衛生士歴 23年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前・後 期	
授業形態・単位数・時間	講義・実習	1単位	30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

予防処置

目的：歯を支える歯周組織の病気である歯周疾患（歯周病）と歯科衛生士の役割り、また、歯周治療の基本の技術・知識を身につける。

齲蝕予防処置

目的：歯科衛生士として、集団を対象とした齲蝕予防処置を行うために必要な知識を身につける。
また、共同動作（グループワーク）を行うことにより、チーム内の連携の重要性・自分で考える力を身につける。

【授業の進め方】

・講義、演習、実習

【使用教本・教材】

教本： 歯科予防処置、歯周病学、プリント他

【評価方法】

- ・定期試験
- ・技術試験
- ・小テスト
- ・レポート課題
- ・授業・実習態度

総合し点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

- ・予習・復習は常に心掛ける
- ・課題においては、提出期限を厳守とする
- ・齲蝕予防を行う、公衆衛生活動の場に積極的に参加する
- ・コミュニケーション能力を身につける努力を心掛ける

授 業 科 目 名	歯科保健指導法Ⅱ		
担 当 教 員 名	橋本 幸子	歯科衛生士歴 45年	実務経験
	嶋倉 里花	歯科衛生士歴 23年	実務経験
	笹山 美香	歯科衛生士歴 23年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義・実習	1単位	30時間(15回)

【授業の目的・到達目標】

授業目標

1年生で学習した基礎(全教科)の知識を、歯科保健行動に変容させるためにはどのように活用させるかを理解する。

対象者別、疾病別の指導法を理解し、的確に助言・援助できるよう学習する。

個人・小集団指導に対する伝達技術・媒体の作成法を習得し、対象別に立案・作成し発表、指導できることを目標とする。

【授業の進め方】

講義、演習、実習

【使用教本・教材】

新歯科衛生士教本 歯科保健指導
 最新歯科衛生士教本 口腔保健管理
 口腔衛生学
 新歯科衛生士教本 栄養指導・生化学
 新歯科衛生士教本 衛生行政・社会福祉
 その他プリント

【評価方法】

- ・授業態度
- ・課題レポート
- ・定期試験

以上のものより総合し点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

- ・予習復習は常に行うようにする
- ・レポートの提出日は必ず守ること

保健指導は対象者によって指導の内容が違うので、数学のように画一的な答えは出ないし、すべての科目の内容を把握しないと、適切な指導はできません。

全教科の集大成が歯科保健指導と考えて学習すること。

年間授業計画

科目名 歯科保健指導法Ⅱ

回数	履修主題	履修内容
1回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 1章 歯科衛生過程の進め方	歯科衛生過程の復習 歯科衛生過程の演習 う蝕（小児）の症例で歯科衛生過程を演習
2回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 1章 歯科衛生過程の進め方	歯科衛生過程の演習 う蝕（小児）の症例で歯科衛生過程を演習
3回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 1章 歯科衛生過程の進め方	歯科衛生過程の演習 歯周（成人）の症例で歯科衛生過程の演習
4回	Ⅱ編 歯・口腔の健康と予防 （保健生態学） 1章 総論 ① 歯・口腔の健康と予防	歯・口腔の健康と予防の定義と基礎 歯・口腔の健康と予防の方法 歯・口腔の健康と健康づくり
5回	Ⅱ編 歯・口腔の健康と予防 （保健生態学） 1章 総論 ③ 歯・口腔の付着物・沈着物	ペリクル マテリアアルバ 舌苔 プラーク（縁上・縁下） 歯石（縁上・縁下） 外来性色素沈着物
6回	Ⅱ編 歯・口腔の健康と予防 （保健生態学） 2章 口腔清掃 ② 口腔清掃法 ③ 人工的清掃法の分類と用具	口腔清掃法の分類 人工的清掃法の分類と用具
7回	Ⅱ編 歯・口腔の健康と予防 （保健生態学） 2章 口腔清掃 ④ 不適切な口腔清掃による 為害作用 ⑤ 歯磨剤と洗口剤	各種用具による為害作用 歯磨剤と洗口剤の種類 歯磨剤の組成 洗口剤の組成
8・9回	Ⅴ編 臨床・臨地実習 2章 地域歯科保健活動 —臨床実習の実践例—	各グループごとに作成する 発表できるようシュミレーションする
10回	Ⅴ編 臨床・臨地実習 2章 地域歯科保健活動 —臨床実習の実践例—	最終シュミレーション 指導法の再確認
11回	Ⅴ編 臨床・臨地実習 2章 地域歯科保健活動 —臨床実習の実践例—	作成した媒体を発表 質疑応答
12・ 13回	Ⅴ編 臨床・臨地実習 2章 地域歯科保健活動 —臨床実習の実践例—	作成した媒体を使用して歯科保健指導を実施する（う蝕） 総評 口腔内写真・レントゲン写真を見て口腔内の異常を読み取る

科目名 歯科保健指導法Ⅱ

回数	履修主題	履修内容
14・ 15回	V編 臨床・臨地実習 1章相互実習（臨床予備実習） ⑦ブラッシング指導実習	歯肉を読む ブラッシング指導相互実習

授 業 科 目 名	歯科診療補助法Ⅱ		
担 当 教 員 名	笹山 美香	歯科衛生士歴 23年	実務経験
	嶋倉 里花	歯科衛生士歴 23年	実務経験
	橋本 幸子	歯科衛生士歴 45年	実務経験
開 講 時 期	2年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義・実習	1単位	30時間(15回)

【授業の目的・到達目標】

授業目標

1年次で習得した歯科診療補助の基本的な知識・技能・態度をもとにより実践的な知識・技能・態度を修得し臨床実習に向けてのモチベーションを向上させるとともに、国家試験に向けての知識の向上も図る。

【授業の進め方】

講義、実習

【使用教本・教材】

最新 歯科衛生士教本 歯科診療補助論
 新歯科衛生士教本 歯科材料の知識と取り扱い
 新歯科衛生士教本 歯科器械の知識と取り扱い
 新歯科衛生士教本 保存修復学・歯内療法学
 新歯科衛生士教本 口腔外科・歯科麻酔学
 最新 歯科衛生士教本 歯周疾患

【評価方法】

- 1、実技試験
- 2、課題レポート
- 3、定期試験

以上のものより総合し点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

予習復習は常に行うようにする
 レポートの提出日は必ず守ること
 実技に関しては常に訓練を怠らないこと

